

『名場面でわかる刺さる小説の技術』 <2024年3月号>

三宅香帆 // 著(中央公論新社 2023.05)

場所:一般【901.3 /ミヤ】

「どうすれば面白い小説が書けるのか？」

書評家の著者が、人気作家25人の小説の名場面を分析し、文章のテクニックを伝授します。小説に限らずブログや履歴書など「忘れられない心に刺さる文章」を書きたいすべての人にお薦めです。また、様々な小説の名場面から、今読みたい本に巡り合えるきっかけもつづてくれます。

『完全版アリス物語』 <2023年6月号>

ルイス キャロル // 著(グラフィック社 2023.02)

場所:一般【933.6 /キヤ】

ルイス・キャロルの「アリス物語」をご存知ですか？白うさぎやトランプの兵隊が出てきて主人公のアリスが大きくなったり小さくなったり。そうです。「不思議の国のアリス」のことです。芥川龍之介と菊池寛が訳したこの本ではティーポットが急須だったり、タルトがおまんじゅうだったり。昭和初期の日本を感じながら不思議な世界に迷い込む物語となっています。私達がよく知っている「不思議の国のアリス」と「アリス物語」読み比べてみてはいかがでしょうか。

『はい、総務部クリニック課です。』 <2023年5月号>

藤山素心 // 著(光文社 2022.06)

場所:文庫【B 913.6 /フジ】

どこにでもある普通の会社に新しくできたクリニック課。そこに入社7年目にして異動になった主人公が医師や薬剤師たちと働くことになるが…。ストレス性胃炎、腰痛、口臭など人には言えない悩みを抱えた人たちがやってくる。

物語の中で、社会人だったらあるあると共感できる事柄が多く、解決策も紹介されているので日常生活にも役立つかもしれません。働く人たちにおすすめの1冊です。

《発行》

関市立図書館 指定管理者 学校法人岐阜済美学院

TEL:0575-24-2529/FAX:0575-23-7780

E-mail:lib@city.seki.gifu.jp

司書のおすすめ 《2023年版:大人の本》

SEKI CITY LIBRARY

BOOK REVIEW

※2023年4月号～2024年3月号の図書館だよりで紹介した本



『日本の最も美しい図書館 改訂版』 <2024年2月号>

立野井一恵 // 文(エクスナレッジ 2023.10)

場所:一般【010.2 /タテ】

全国各地にある、歴史的な建物を今でも利用しているレトロな図書館や、近代的で変わった建築の図書館など、大学図書館を含めた41館が紹介されています。図書館内もアールデコ調やコロセウムをテーマにするなど個性的な所もあり、行ってみたいくなる図書館ばかりです。眺めているだけでも楽しく、美しさにうっとりしたり驚いたりするかと思います。

『何でもないことで心が疲れる人のための本』 <2023年4月号>

榎本博明 // 著(日経BP日本経済新聞出版本部 2021.10)

場所:一般【141.9 /エノ】

学校や職場、楽しい時間を過ごしたあとでも、自分の発言や行動を気にし、後悔をして心が疲れてしまったりする時があるかもしれません。それを受け止めて、自分の心の特徴を知り、少しでもストレスが軽くなるようなアドバイスを伝えています。

『日本の家紋とデザイン』 <2023年11月号>

濱田信義 // 編著(パイインターナショナル 2022.12)

場所:一般【288.6 /ハマ】

日本の伝統文化である「家紋」。でも「家紋」と聞いて、自分の家(家系)の家紋を思い浮かべる人もいれば、お盆にお墓で見たことあるかも?程度の人、時代劇でしか見たことないという人、人それぞれだと思います。家紋のデザインは植物や動物、自然現象などをモチーフにしていて、同じモチーフでもデザインを変えて(例:花びらや葉の枚数)何種類もの家紋があり、由来等詳しいことを知らなくても見ているだけでも楽しめます。

『世界のすごい墓』 <2023年7月号>

地球の歩き方編集室 // 編集(地球の歩き方 2023.03)

場所:一般【290.9 /チキ】

知っていますか?ベートーヴェン(ドイツの作曲家)の墓石はメトロノームの形。ミヒャエル・エンデ(『はてしない物語』『モモ』の著者)は本をかたどった墓石の周囲を物語の世界で再現。ロダン(フランスの彫刻家)は代表作の「考える人」の形の墓石。世界にはいろんなお墓がいっぱい。始皇帝陵やピラミッドなど教科書で習うものから世界の歴史的人物・名所、日本の霊園・文豪・志士のお墓まで載っています。

『コモンの「自治」論』 <2024年1月号>

斎藤幸平 // [ほか]編(集英社 2023.08)

場所:一般【309.0 /サイ】

“コモン”とは水道や公園のような“共有財・公共財”のこと。これからどうやって自分たちの生きる社会を作っていけばいいのか。“共有”と“自治”というテーマで7人の著者が論じています。

未来を考えるのに明るいヒントになる考えが詰まっています。

『美ら海トワイライトゾーン』 <2023年10月号>

佐藤圭一 // 執筆(産業編集センター 2023.05)

場所:一般【481.7 /サト】

沖縄にある美ら海水族館の深海展示チームが無人潜水艇を駆使し、沖縄の海に生息する深海魚を撮影した一冊。撮影された深海魚な数は173種。テレビなどで見たことのある深海魚から沖縄ならではの深海魚まで、学芸員の解説と共に大迫力の美しい写真を見ることが出来ます。図鑑などには必ず乗っている英語や日本語の学名の他に、沖縄名が載っているところも要チェックです。

『戦国城郭に秘められた呪いと祈り』 <2023年9月号>

小和田哲男 // 著(山川出版社 2022.07)

場所:一般【521.8 /オウ】

“城”というと、戦のためのものというイメージが強いのですが、実はそれだけではなく、天守は祈りの場であったり、石垣に使われている転用石は材料不足を補うためと考えられていましたが、実は“穢れ”を祓うために置かれたのではないかと考えるなど、城主の様々な祈りがこめられているようです。こういった観点から城をながめると城も印象が変わるかもしれません。

『師弟百景』 <2023年8月号>

井上理津子 // 著(辰巳出版 2023.03)

場所:一般【750.2 /イノ】

みなさんは、伝統工芸の文化や技術はどのように受け継がれていると想像しますか?この本では、一子相伝でなく、血縁以外に門戸を広げている師匠と弟子の“リアル”な関係を取材しています。働き方の多様化した現在、様々なきっかけで伝統工芸の世界に飛び込み、「好きなことを極める」「会社員にはならず生きる」職人たち。その世界は時代に即して変化してきています。

美術や工芸に興味がある人はもちろん、これから将来を決める中高生や大学生、職人の世界に憧れている人にも読んで欲しい1冊です。

『これで死ぬ』 <2023年12月号>

羽根田治 // 著(山と溪谷社 2023.08)

場所:一般【786 /ハネ】

大自然とふれあい、心をリフレッシュしてくれるアウトドア。その反面、予期せぬ事故で毎年多くの人が海や山、川で命を落としています。この本では、ごく基本的なアウトドアの危険を、実際に起きた事故を取り上げて、自然の中にはどんな危険が存在しているのか、どうすれば事故が防げるのかを解説しています。自分や大切な人の命を守るための第一歩として、普段あまりアウトドアに行かない人にこそ読んでほしい1冊です。

